

鹿嶋祭保存会広報部会第2回会議

2012年11月30日

ウェスター

【出席者】 高橋 伸、伊藤富美雄、藤枝隆博、海風敏夫、大塚正一、阿部民樹
(欠席) 石澤千秋、武藤祐浩、南波郁夫、森本読春、

(伊藤富美雄会長挨拶)

各部会で課題に沿った会議、活動が展開されている。講演会、ウェスター祭りでは会員のご協力でご成功裏のうちに終了した。現在、写真展は引き続き秋田銀行で展示が行われている。引き続き部会のテーマ、課題に向けて頑張ってもらいたい。

【経過報告】

10月 1日 ウェスター 「鹿嶋祭講演会」 講師大島正美氏

11月 12、13、14日 ウェスター祭り 「鹿嶋祭写真展」

11月 14日～12月 16日 「鹿嶋祭写真展」秋田銀行新屋支店展示会場

全体討論

これまでの活動を振り返って広報部として総括討論。10月29日に開催された「事業部会の議事録」の報告を受けて広報部でも意見交換した。

【講演会について】

「講演会は一回目としてはよかったが、講演からは鹿嶋祭の歴史、ルーツについては難しく、歴史家(大島正美氏)として史実を確認出来る文献(証拠)がない以上、新しい提起は期待できないのではないか」「歴史家として言い伝えだけでは想像で話は出来ないのではないか」「大島講師以外に新屋、鹿嶋祭の歴史を語る人が今日ではいなくなった」

(鹿嶋祭の今昔について)

「鹿嶋の歌も歌詞の混乱があり、政調がなにか教えて欲しかった」「昔、新屋には四季に楽しい行事(遊山、端午の節句、露踏み、鹿嶋祭、七夕祭り～よちやこの灯籠とやぐらこ)、が行われていた。鹿嶋祭の朝、露踏みをやった経験があるが、新屋地域の環境の変化(畑が一面宅地となる)今ではなくなってしまった」「祭りも学校が休みで子供中心の行事だった」「鹿嶋人形を各屋々、町内会で作った歴史や楽しみについて貴重な経験、思い出としてしゃべってもらってはどうか」「鹿嶋人形の首(顔)の作り方、鹿嶋流しのやり方も現在とはずいぶん違っていた」「過去、鹿嶋人形の品評会も行ったこともあった」「鹿嶋の歌や演奏も教え方、歌われ方が変化してきた。」「鹿嶋船も船ごと海に流したりしたこともあった」

(討論から導かれた鹿嶋祭保存会の課題と今後について)

「鹿嶋祭の歴史も一人で語るとすれば大変だが、何人か集まっていたら座談会形式でし

やべってもらうことで当時を振り返り、新しい発見があるかもしれない」「経験者は年齢的に 80 歳代の高齢であり、なかなか語れる人は少なくなっている」「鹿嶋祭に関する資料もたくさんある（川口彌之助著書）ので、保存会でまず会員学習の場を」「鹿嶋祭を学ぶことと、現在生きている方々から座談会、討論形式で、貴重な体験、思い出を語っていただき、記録しておくことも保存会の役目ではないか」「これからの活動として全体提起したい」

【写真展について】

「写真展も今年は参加町内から写真提供があり素晴らし展示物となった。」「毎年、搭載物も違うし各町内に写真提供（制作から奉納、鹿嶋流しなど）はお願いしたらどうか」「今後の写真展示場の予定はあるか」「ナイスの休憩フロア、及び日吉会館をお願いしていきたい」

※結果的には、12月16日から「鹿嶋祭について」（日吉神社宮司 石澤久英氏）のパネルを日吉会館に展示をお願いした。

【今後の広報部の活動予定】

1. 鹿嶋祭保存会のホームページの立上げ ⇒ 予算化を具体化して行く。
2. 「鹿嶋さんニュース」定期発行 ⇒ 年数回の発行体制、全町回覧、活動の紹介、会員拡大に向けて。
3. マスコミ対策 ⇒ イベント、行事、取り組みを連絡・宣伝体制
4. 鹿嶋祭のポスター作成 ⇒ 美大開校記念して要請してはどうか。鹿嶋祭の写真があれば容易に作成は出来る。来年の鹿嶋祭に合わせて準備する。
5. 「地域づくり交付金」に向けた取り組み ⇒ 展示用鹿嶋船、旗、腕章、半被、ジャンパー、襷（たすき）など保存会グッズを作成し、地域文化を保存、継承して行く。
6. 事業部会の討議と並行して討議継続。（時期的には年末年始に基本案作成と申請）
7. 製作部のミニチュア鹿嶋船の製作 ⇒ 数年の期間を要して製作に向けて議論して行く。展示場、保管場所の確保など考慮した大きさ、規模を考慮。制作の人材確保
8. 今年の鹿嶋祭参加町内会アンケート集約（「全体会議」に報告し活動の参考とする）
9. 来年2月予定の「会員全員会議」に広報部として本日の議論の内容に沿って報告、提起して行きたい。

※ 会議終了後、居酒屋にて懇親を深める